

小鈴シリーズ通信 vol.2

～ 栽培中期編：11月～翌年2月頃まで ～

平素から当社ミニトマト「小鈴シリーズ」をご利用ご愛顧頂き、誠にありがとうございます。
本紙では、ミニトマト「小鈴シリーズ」を栽培する皆様にとって役立つ情報をシーズン中
3回にわたってお届けしております。

今回 vol.2 では、栽培中盤の栽培のポイントを中心にご案内してまいります。続けてお読みいただけましたら幸いです。

目次

小鈴シリーズ一覧

小鈴シリーズに共通した特性

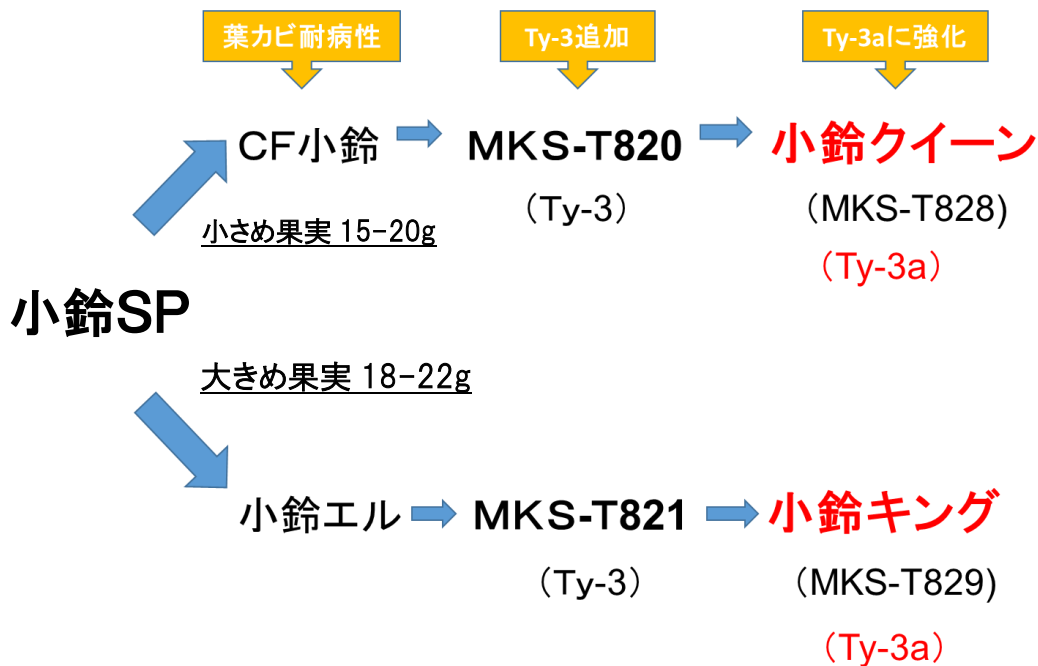
小鈴キングとクイーンの特性

中期栽培のポイント

- ✓ 草勢のバランスを維持する
- ✓ なぜ冬場に向かって草勢が弱くなる？
- ✓ 草勢が弱くなると…
- ✓ 草勢が低下してしまったら…
- ✓ 露地定植 → ハウスフィルム展張後の注意点
- ✓ 草勢維持と裂果防止のための温度と湿度の管理
- ✓ 適切な防除を行う



小鈴シリーズ一覧



小鈴シリーズに共通した特性

- ✓ 中葉で節間が短い
収穫開始後も 誘引作業の手間が少なく省力的である
- ✓ 草勢が強い
厳寒期でも安定した草勢を維持しやすい
- ✓ 裂果は極めて少なく 果実が硬く へたが取れにくい
収穫調整時の作業性、収穫後の輸送性、店もち性に優れる
- ✓ 果実は濃赤色でやや光沢がある
収穫後の荷姿が非常に美しい
- ✓ 食味が良い
甘みと酸味のバランスが良くコクがあり 美味しい



小鈴キングとクイーンの特性

- ✓ 黄化葉巻病耐病性を強化
‘TY-3’より強い‘TY-3a’にアップグレード！ 夏場の罹病がさらに軽減 安心安全♪
- ✓ 早生性
従来、TY-3a を付与すると熟期が遅くなってしまっていた。しかし早生性をキープしたまま TY-3a 因子を持たせることに成功！
- ✓ 小鈴シリーズの特長はすべてそのまま！

栽培のポイント

✓ 草勢のバランスを維持する。

- 12月中旬からやや強めの草勢に管理することで、その後の厳寒期も草勢を維持しやすい。
- 灌水は少量多回数での施用を心掛ける。
- 追肥はこまめに行うことが望ましい。液肥の場合はひと月に窒素成分（N）で3-4 kg/10aを3、4回に分割して施用する。粒状肥料を使用する場合は、出来るだけ緩効性肥料を使用する。
- 下葉かきは、着色し始めた果房の一枚上まで摘葉する。摘葉のタイミングは生長点付近の茎の太さなど、樹勢を確認しながら定期的に行う。
- もし草勢がつきすぎてしまった場合は、「小鈴シリーズ通信 Vol.1」に掲載している内容を参照して草勢を抑える。

✓ なぜ冬場に向かって草勢が弱くなる？

- 日照量、気温の低下と同時に着果負荷がかかることで草勢が低下してくる。
- 生長点付近の茎が細く生長点と花房との距離が近いときは草勢が弱い。



生長点付近の
茎が細い

生長点と花房の
距離が近い

✓ 草勢が弱くなると…

- シングル花房が増え花房が短くなり花数が少なくなる。
- 果実肥大が悪くなり、減収につながる。
- 食味の低下やがくが弱くなり落下するなど、果実品質の低下につながる。

✓ 草勢が低下してしまったら…

- 追肥や灌水を適切に行う。状況により液肥の葉面散布を実施する。
- 摘葉のタイミングを遅らせる。また過剰な下葉欠きを避け適切な葉枚数と果数で草勢維持に努める。
- 花房直下枝の本葉を一枚残した状態で摘芯し、葉枚数を増やすことで必要な葉面積を確保する。
- 下葉欠きと誘引作業の間は1~2日間隔を置きストレスを分散させることが望ましい。

✓ 露地定植 → ハウスフィルム展張後の注意点

- フィルムを展張してハウス環境へ移行したときに、着果負荷が急激にかかり草勢が低下することが予想される。そのためフィルムを展張する前から安定した草勢の維持を念頭に置き、追肥開始のタイミングが遅れないように注意する。
- フィルム展張後ハウス内の湿度が急激に上昇することによって、裂果や病害の発生を助長することがある。その対策として適度な換気を行うと同時にハウス内温度の確保に努める。

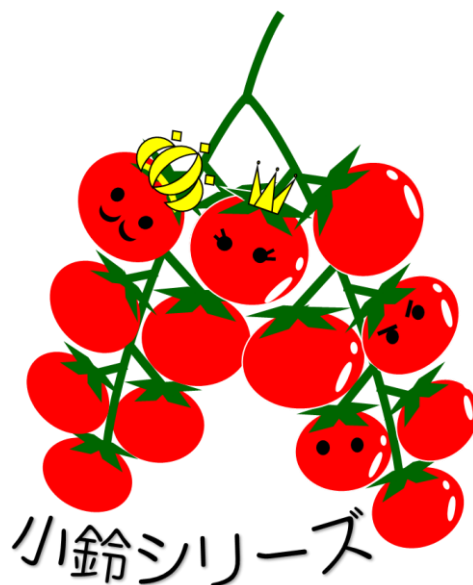
✓ 草勢維持と裂果防止のための温度と湿度の管理

- 厳寒期でも晴天日の日中はこまめに換気を行い、ハウス内湿度を調節する。
- 晴天日の日中はハウス内温度 **25～28℃程度**を目安に換気管理を行う。
- 夜温は **12℃以下**にならないように注意して管理する。

✓ 適切な防除を行う

- ハウス内の湿度が上がり、低温期に向かう条件のため、特に灰色かび病に注意する。また芽かきや葉かきなどの管理は晴天時に行い、作業後の傷口をよく乾かすように努める。
- またこの時期には疫病の発生に注意する。疫病は発生すると短期間で一気にハウス内に蔓延するので適宜予防を行う。
- 灰色かび病やすすかび病、うどんこ病の防除とともに、コナジラミ類の防除も定期的に行う。

※ 次回「小鈴シリーズ通信 vol.3～栽培後期編～」は2月下旬頃にお届けいたします。



みかど協和株式会社